



箕輪進修高校 進路指導室

2011. 12. 22

No. 72

余裕を持って臨む



先日3年生に追試を行った際、あらかじめ合格点を伝えておいたところ、ある生徒が合格点ぎりぎり分だけ勉強をして来、そのうち一問を間違え不合格となってしまいました。追試を受けるのにそもそもこういう心がけでは困りものですが、皆さんも往々にしてこうしたことがありませんか。

何事も余裕を持って臨まないとだめです。進路の試験の時に、受付時間ぎりぎりですり入りますか。普通はあり得ないでしょう。もし何か有れば大変なことになりますから皆余裕を持って行くでしょう。皆さんは「そんなこと分かっているよ。学校の追試は別」というかもしれませんが、何事もなめてかかるのではなく、余裕を持ってことに当たりたいものです。

仕事の上でも切羽詰まらなないと出来ないということもありがちです。夏休みの宿題をため苦勞した経験は誰でも一度ならずあるでしょう。人それぞれに仕事のやり方はあるでしょうが、ある程度余裕を持って片付けることを心がけていると精神的にも楽です。私も**面倒なことは早め早めにやる**ことを心がけています。**その方が精神衛生上良いし、仕事の見直しが出来分ミスが減らすことも出来ます。また空いた時間を有効に使えます。**皆さんも是非余裕を持ってことをこなすよう心がけて欲しいものです。



ひとを思いやる心

これからクリスマスシーズンを迎え、世の中に何か華やかさが漂いますが、一方では様々な悲しい思いに浸っている人も沢山いるでしょう。私達は、より大きな悲しみや困難を抱えている人に対し、優越感を感じたり、そんな人を冷たく見るということもありがちですが、そうした人々に温かい思いやりを持って接することは必要なことです。人は皆そうやって互いを支え合って生きているのです。

大震災や災害等の折、多くの人々の善意が寄せられています。**困っている人には皆で温かく支えてやれるような優しさを持ち続けたいもの**です。自分たちが困っている時にまた他の人達から手をさしのべられることもあるでしょう。

人間の中には誰にでもそんな優しさがあるはずですが、時には人に意地悪をしたり、人と争ったり、国同士で戦争をしたりと悪魔の心も潜んでいます。それも人間の弱さに起因しているのでしょう。私達は**もっと素直に人を思いやる気持ちを大切にしたいもの**です。優しさの量ではなくその気持ちが大切でしょう。

困難を抱えているから、
人のことなんか、
かまっていられないと思いがち。

これは誤解です。
悲しみや困難を抱えていても、
人に優しくしてみると、
かえって元気がでてくる
のではないのでしょうか。

(ここから。鎌田寛十山本高史)